

## 第10回十日町石彫シンポジウム

宮澤 光造

### 10<sup>th</sup> Tokamachi Stone Carving Symposium

MIYAZAWA Kozo

#### Abstract

“Tokamachi Stone Carving Symposium” which started in 1995, has continued to be held with a slogan of “Let’s make the whole city into a museum”.

This year, we celebrated its 10<sup>th</sup> anniversary, which was considered to be a turning point. For this occasion, two artists were invited from Como, Italy, the sister city of Tokamachi, and together with 4 Japanese artists, a total of 6 artists played active roles in the Symposium.

Over the duration of the Symposium, which was held from August 1<sup>st</sup> to 22<sup>nd</sup>, the procedures of processing rough stones into completed art objects were shown to the public. Here, through the art works created by the present writer, Stone carving Symposium where everything from the installation to the unveiling ceremony was conducted in a tight schedule will be introduced.

Key Word: Stone Carving, Symposium, Tokamachi, Culture, Italy

#### [要約]

平成7年にスタートした「十日町石彫シンポジウム」は『街全体を美術館に』を合言葉に進められ、今年で10回を迎えた。

ひとつの節目であるこの第10回展は、十日町市と姉妹都市であるイタリアのコモ市より2名の作家を招き、日本人作家4名の計6名で行われた。

8月1日～8月22日までの会期中に原石から完成までを市民に公開しながら制作し、設置・除幕式まで行うハード・スケジュールの中で、筆者の制作を通して石彫シンポジウムの姿を追う。

キーワード：石彫、シンポジウム、十日町市、文化、イタリア

## はじめに

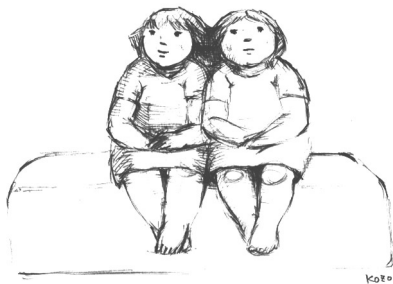
彫刻のシンポジウムは第二次世界大戦以降、ヨーロッパにおいて新しい街づくりのために始められた。作家は、作品を設置する都市で寝食を共にしながら制作し、その制作過程は一般市民に公開される。時に作家と市民が、直接交流を持ちながら仕上げられた作品は、制作の記憶と共に永く街に設置される。

稀に木彫のシンポジウムが行われることもあるが、作品の多くが野外設置であるため石彫のシンポジウムが主流である。

日本では30年ほど前から岩手県岩手町や東京都八王子市で取り入れられ、その後経済の成長と呼応するかたちで多くの都市で開催されるようになったが、近年は激減し毎年行われる都市は新潟県十日町市だけである。

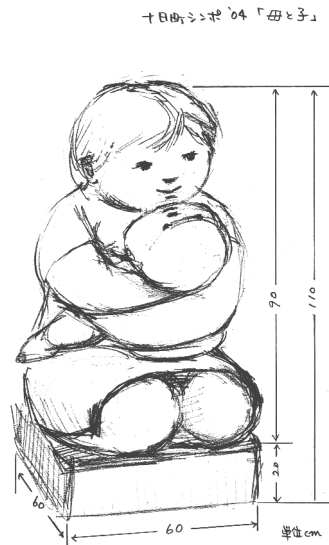
### 1. シンポジウムの準備

2004年4月4日(日)、日本人作家とシンポジウム実行委員による現地視察が行われ設置場所にふさわしいイメージ・デッサンの提出が求められる。



2004 十日町「ふたり」

デッサン 1 ふたり



デッサン 2 母と子



2004 十日町「約束」

デッサン 3 約束



2004 十日町「風の子」

デッサン 4 風の子

その後、実行委員と地元市民の会議を経て、『デッサン 4・風の子』のデザインが採用される。

## 2. オープニング

8月1日(日) シンポジウム開会式、ノミ入れ式、また市民による今までの作品の鑑賞ワークショップが行われる。



山崎実行委員長の開会の言葉



滝沢十日町市長(中央)によるノミ入れ式  
お神酒をかけ作業の安全を祈願する

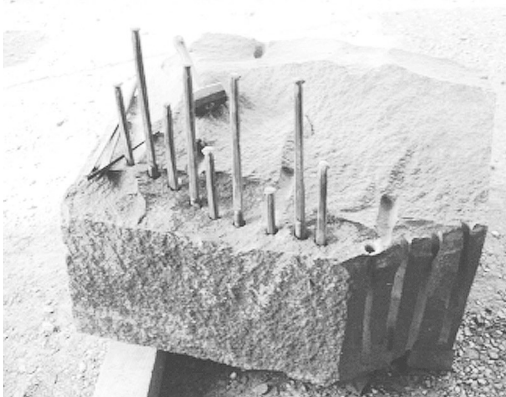
### 3. 制作



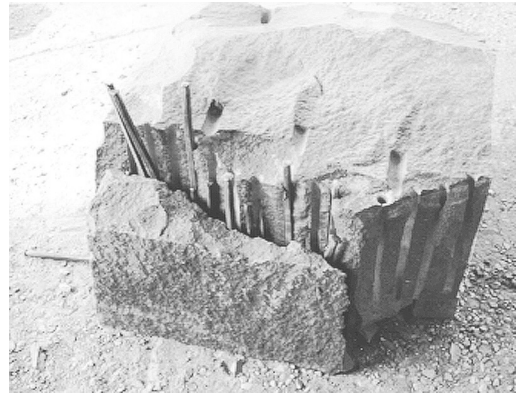
原石（インド産黒御影石）



ルートハンマー（小型削岩機）による穴あけ



1. 穴に鉄の楔（せり矢）を仕込む



2. 楔をハンマーで打ち込み石を割る



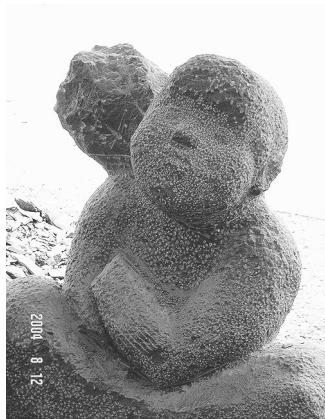
3. 石が割れたところ



デッサンをもとに荒彫りが始まる



彫りやすい体勢に石を転がす



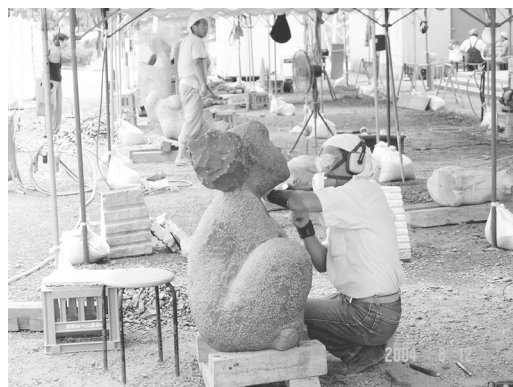
石に朱墨でデッサンを入れる



ノミとハンマーで彫り続ける



マスク、防護メガネ、防音具を付けて制作する



テントを6つ並べ、日伊6名が石を刻む



手前から漆山昌志、鈴木啓悟、  
マッシモ・クレリチの各氏



ブルーノ・ルツアーニ氏が  
グラインダーで石を切る



地元の子供たちが集まってきた



台座の石を作り、作品をのせてバランスをみる



除幕式、滝沢市長（左はし）と筆者（後列中央）



顔のアップ

#### 4. 作家の記録

氏名	出身地	略歴	題名	設置場所
Bruno Luzzani ブルーノ ルッツアニ	イタリア国・ コモ生まれ 63歳	コモの美術学校で学ぶ 彫刻家の家系で4代目	絹に結ばれた姉妹都 市	十日町市役所
Massimo Clerici マッシモ クレリチ	イタリア国・ コモ湖畔モ ルトラージ オ生まれ 59歳	父が彫刻家・技術専門 学校で解剖学・芸術史 を学ぶ	ヴルカヌスの女	(株)大光銀行十日町支 店
漆山 昌志	新潟県阿賀 野市生まれ 48歳	愛知県岡崎市で石工修 業	何して遊ぼう	コモ通り・高橋邸
明地 信之	東京都生ま れ 41歳	東京造形大学彫刻科卒 業	Leone (ライオン)	コモ通り・中山邸
鈴木 啓悟	静岡県生ま れ 36歳	多摩美術大学院彫刻科 修了	La maternita (母性)	コモ通り・十番館
宮澤 光造	東京都生ま れ 46歳	東京造形大学彫刻科研 究室修了	風の子	子育て支援センター・ くるる